アルゼンチン通信

第16号　2025年11月30日発行(毎月月末発行予定)
JICAシニア海外協力隊2024年1次隊:経営管理
玉東町グローカル2024年03月卒業生
鈴木功二　サンティアゴ・デル・エステロ在住

嵐の後、なぎ倒された木

・11月も後半になると、日の出が6時前になり、朝、自然と目が覚めます。また、20時頃になってもまだ明るいので、夏が近づいているのを実感します。朝の気温は20℃以上、日中は40℃近くになるので、もう長袖は要らなくなりました。
・11月24日(月)は、「国家主権記念日」で祝日でした。元々は、1845年11月20日、イギリスとフランスの連合艦隊との戦いを、国家の主権を守った戦いとして記念した祝日ですが、移動することがあり、今年はなぜか11月24日でした。日本で言えば、薩英戦争(1863年)や下関戦争(1864年)に相当するのでしょうか。
・11月21日(金)の深夜は、今までで最も強い嵐が吹き荒れました。台風やハリケーンはこの地方にはないと聞いていたのですが、風速86Km/hを超える突風だったそうで、台風並みです。翌朝、街中を歩くと、あちこちで木が倒れ、電線が垂れ下がっていたり、大変な状況でした。

今回は、私の配属先の同僚であるシルバナさんを紹介します。
私は列車で通勤していて、帰りの列車が運休になることが時々あるのですが、その時は、市内まで彼女の車に同乗させてもらったり、病院に行きたい時やキャッシュレスアプリの使い方が分からない等、私がボランティア生活で困った時によく私を助けてくれます。
彼女にインタビューして記事にしました。一部日本語として不自然な箇所がありますが、その意図を感じとっていいただければ幸いです。

1）私のルーツ
・私の名前、シルバナはラテン語で「森に住む者、森から来た者」という意味を持っています。でも実は、母が生涯夢見ていた名前なんです。母はずっと娘を持つことを夢見ていて、その子にシルバナという名前を付けたいと願っていました。私はその夢の実現です。

・私の姓ディ・ヘロニモは、イタリアのサレルノ県サントメンナ(ローマよりも南)という町に由来しています。父方の祖父はそこで生まれ、第二次世界大戦の影響でわずか8歳でアルゼンチンに渡ってきました。このルーツを知ることで、困難を乗り越えてきた家族の一員であることを誇りに思っています。

2）私の家族
・私は一人っ子として育ちました。そして今、夫のフェデリコと自分の家族を築いています。彼とは16年来のパートナーで、今年の4月に結婚しました。また、5歳の息子、フアン・マルティンがいます。

・フェデリコは小児外科医です。最初に惹かれたのは、穏やかさと親しみやすさ、そして身長の高さでした(笑)。でも時間が経つにつれ、本質的な魅力的なものを発見しました。彼の優しさやあふれでる知性、医師のプロフェッショナルとしての卓越性、そして仕事への愛情。彼は自分の仕事に本当に情熱を持って取り組んでいます。

・息子のフアン・マルティンは、本当に愛らしい子です。私が彼に望むのは、何よりもまず善良な人間になること。責任感があり、思いやりがあり、自分のことだけを考えない人になってほしい。成長して情熱を注げるものを見つけ、できればそれで生きていけたらと願っています。愛に満たされて、忠実で誠実な人々と人生を共有できますように。友人であれ、家族を築くパートナーであってほしいです。

3）幸せはシンプルな中に
・私にとっての幸せに、大きなセレモニーは必要なく、盛大にお祝いをする習慣はありません。誕生日には、親しい人々と一日を過ごすことを楽しみます。夫はいつもアサードを作ってくれ、母は美味しいケーキを贈ってくれます。忙しい日常の中で、先延ばしにしがちなことですが、散歩に出かけたり、コーヒーやお酒を飲んだり、愛する人々とシンプルに過ごすことが好きです。

・毎年、誕生日には、数分間立ち止まって、この一年を振り返ります。それが自分の人生の物語とどのようにつながっているかを考えるのです。いつも神に感謝する理由はたくさんあります。

4）音楽、私の情熱
・歌うことや音楽を聴くことが、私の大切な趣味です。父や母は、それぞれ異なる方法でこの私の趣味を育んでくれました。ギターと歌のレッスン代を出してくれたり、一緒に音楽を聴きながら、お気に入りのバンドや曲にまつわる物語を共有してくれたり、父母には感謝しています。

・音楽がこれほど私を惹きつけるのは、歌うことで感じる自由の感覚だと思います。そして音楽には、メロディーと歌詞のメッセージでさまざまな感情に寄り添ってくれる魔法のような力があると思います。

5）私の職業人生
・私は食品工学士です。国立サンティアゴ・デル・エステロ大学で学生助手として働いていたとき、食品の品質管理が好きだということに気づきました。その後、サンティアゴ・デル・エステロの食品衛生総局で働き、別の視点から品質管理を学びました。検査と監査という視点です。

・国立工業技術院(私の配属先、通称インティ)がサンティアゴ・デル・エステロに食品分析ラボを設置する計画があると知ったとき、迷わず応募しました。私は食品工学士であり、ラボでの品質管理が好きだったからです。

・今年の11月21日で、インティでの勤務は10年になりました。いくつもやりがいを感じる点があります。
-インティは「知識へのアクセスが無限」だと常に感じています。毎日、自分の仕事に関係することもしないことも、いつも新たなことを学び続けています。
-インティは人材育成に投資しており、興味があって仕事と関連する分野で専門性を高めることができています。
-インティでは、顧客が進化し新しいサービスを求めるため、常に新しい挑戦が生まれます。

・現在、私は国立工業技術院 北西アルゼンチン地域副管理部の品質責任者です。技術サービス(試験、校正、研修、技術支援)の品質について、計画、管理、保証、継続的改善を担当しています。

6）私を導く言葉
・私が大切にしている言葉があります。「人間は実際に起こることよりも、想像することでより多く苦しむ」。
・この言葉は、活動や責任に圧倒されて、自分が否定的な考えに陥った時、心に平穏と秩序をもたらしてくれます。この言葉を思い出すと、何も起こっていないことやあれこれ考えることに時間を費やすのではなく、まずは行動すべきことに気づくのです。

7）私の夢
・仕事では、品質管理の知識を深め続け、この分野に関連する新たな挑戦に取り組むことが夢です。

・個人としては、家族がいつも幸せであるのを実感して、それを楽しむことです。なぜなら、私の人生の中で最も大切なのは家族と一緒にいて、できる限り多くの時間を共有することだからです。

8）日本との出会い
・私は、日本は非常に賢明な文化と社会を持つ国だと思っています。人間、動物、環境を尊重し、知識と技術の最先端を維持している国という印象です。

・コージ(私のこと)のボランティア活動は、とても豊かな経験です。異なる二つの文化の出会いから、なぜそうなのかを理解し、お互いの習慣を知る必要があります。情報と経験の絶え間ない交換が生まれるのです。

・個人的には、日本についての印象が確信に変わりました。実際、いつの日か日本を訪れたいと切望しています。

・コージから学んだこと、それは日本人はとても秩序正しく、すべての活動に事前の計画があり、時間をとても尊重し、アクセスする情報やレポートに必要な情報をすべて記録します。この経験は、私にとってかけがえのないものです。異なる文化を理解し、尊重することの大切さを、身をもって学んでいます。

私の人生を振り返るとき、いつも感謝の気持ちでいっぱいになります。家族、仕事、学び続ける機会、そして異なる文化との出会い。これらすべてが、今の私を形作っています。シンプルなものの中に喜びを見出し、常に成長し続けること、それが私の生き方です。

【シルバナさん】

【シルバナさんと家族】

【シルバナさんと国立工業技術院(インティ)のメンバー】

(スペイン語版を同時配信)

鈴木功二